

芦別市社会福祉協議会
地域福祉実践計画書

地域福祉実践計画の策定について

趣 旨 小地域福祉活動・住民活動支援事業・介護保険事業・在宅福祉サービスの充実は社会福祉の基幹事業である。今般、道社協における「安心・安全・福祉のまちづくり」推進運動に呼応するなかで、芦別市においては人口の総数減・少子高齢化そして過疎化の現象等、解決を図るべき課題が山積している。また、国の制度改正による不安定な介護関連の経営に加えて、市財政逼迫による社協の運営面での影響は、更に厳しさを増す状況にあり、セーフティネットの確立や機能強化を図るため自立した経営体質が求められている。

今年度より芦別市において社会福祉を含めた「第5次芦別市総合計画」がスタートしたこともあり、地域福祉実践計画は、市関連計画との整合性を図りながら当社協の5年間（平成23年度～27年度）を見通し、あるべき姿を想定し作成するものである。

1 作成の意義

- ① ある程度の長期計画を策定することは、地域福祉活動が体系的に進められ、住民の参加や関係機関団体との連携が図りやすくなる。
- ② 体系的な地域福祉活動の展開により、財政対策等が計画的に進められ、行政や住民の協力が期待できる。
- ③ 計画づくりにより、地域住民や地域福祉に関わる関係者が、地域の生活課題を共通に認識でき、一層の社協活動に対する理解や活動に対する協力体制が構築される。

2. 作成の基本理念

- ① 地域住民に発信され、理解されるように
- ② 地域住民の意向が反映されるように
- ③ 地域住民がその内容に共感し、自ら参加・協働できるように

3. 基礎資料

◆地域の特性を把握する

① 人口構造～高齢化率、独居世帯

昭和 33 年 75,309 人がピーク。炭鉱産業の衰退により人口が流出している。近年では、死亡者数が出生数を上回る状態。就職先、進学先を求めて若年・青年層が市外に転出（総人口の減少）

年齢構成では、昭和 60 年から平成 17 年の 20 年間で高齢化率 20.2% 増加して 34%。15 歳未満の年少人口率は 8.3% 減少して 10.1%。本市の少子高齢化は急激に進行している。

② 地域の産業構造～基幹産業、特質

本市は農業、林業、石炭鉱業を基幹産業として発展してきたが、急速に進んだエネルギー革命による炭鉱産業の衰退後、観光事業や企業誘致等を進めましたが、バブル経済の崩壊による企業の撤退・倒産、公共機関の縮小・撤退、小中高校の統廃合が進み、現在、第 1 次産業、第 2 次産業、第 3 次産業とも就業者数が減少し、第 3 次産業就業者率が上昇している。

③ 地理的、自然条件

本市は、北緯 43 度、東経 142 度北海道のほぼ中央に位置し、東西に 24.06 km、南北に 48.65 km、面積 865.02 km²におよぶ広大な面積で、88% が山林（多くは国有林野）で南東から北西にかけて空知川が流れ、その流域沿いに集落が形成され、農地の広がる豊かな自然に恵まれた町で、気候は大陸性で年間平均気温は 7.5℃と比較的温暖。過去 10 年間の平均降雪量は 8m、最深積雪量は 74 cm（数値は平成 19 年度）

交通網は、国道 38 号と国道 452 号が市街地で交差しており、道道 11 路線が入り込み、札幌市まで約 110 km、旭川市まで約 40 km、帯広市まで約 140 kmと道内主要都市と結ぶ地点に位置している。

④ 住民の福祉意識

厳しい自然環境に打ち勝ち、共に助けあい支え合う古来からの風習は一部にみられるが、炭鉱地帯の会社依存の体質も感じられる。

世代の交代もあり、定住者による新しい共助、協働の気風が育ちつつある。

⑤ 文化・教育環境

文化活動として創作活動（俳句・短歌・絵画・写真・手芸・書道等）は多種にわたっている。また、伝承文化として芦別獅子舞・百人一首・詩吟・華道・茶道等、美術部門・芸能部門・文芸部門の団体が芦別市文化連盟を組織し、積極的に活動している。

学校教育は勿論であるが、芦別市民劇場をはじめ映画学校・体育的活動のパークゴルフやゲートボール等、生涯学習関連団体も積極的に活動中である。

また、百年記念館・図書館・動物公園・運動公園・農村公園等も整備され、各地域に研修センターや生活館・会館等のコミュニティ関連施設も多い。また、生きがいセンター（木彫、陶芸）での趣味を生かした活動の場も利用されている。

◆ 地域福祉ニーズの把握

行事や活動を通して、ある程度の把握はできるが、近年、地区別に懇談会を開催して把握に努めている。

◆ 社会資源の現状

① 民間団体

前述のように、民間で活動している団体やサークルがある。

② ボランティア

社協にボランティアセンター運営委員会が設置されており、現在47団体が登録されている。昨年度より道営住宅ふれあい団地集会所を拠点とするサロン活動が開始され、民生委員・町内会在宅福祉部によるボランティア活動も展開されている。今後においても組織化された活動が期待される。

芦別市社会福祉協議会 地域福祉実践計画の構成

- 1 計画期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日（5年間）
- 2 基本目標
 - 【全道共通目標】「ともに支え合う、安心・安全・福祉のまちづくり」
 - 【芦別市独自目標】
「この町に住んでいてよかったと誰もが思える福祉のまちづくり」
- 3 基本計画
 - (1)「地域でともに支え合う仕組みづくり」
 - (2)「個々の暮らしを支える体制づくり」
 - (3)「誰もが健やかに生活できる社会づくり」
 - (4)「地域福祉を担う人づくり」
 - (5)「地域福祉の充実を目指す組織づくり」
- 4 重点推進項目
 - (1)「地域でともに支え合う仕組みづくり」
 - ①常に住民ニーズの把握に努めます。
 - ②一人暮らし高齢者等の見守り体制を整備します。
 - ③高齢者等が気軽に集う「ふれあいサロン」の普及に努めます。
 - ④災害時要援護者の支援体制を整備します。
 - ⑤振り込め詐欺、消費者被害防止のネットワークを整備します。
 - (2)「個々の暮らしを支える体制づくり」
 - ①認知症高齢者や家族への支援体制を整備します。
 - ②障がい者の移動・コミュニケーション手段を整備します。
 - ③離職者や一時的に生活困難となった住民を支援します。
 - ④総合相談機能強化と関係機関との連携を図ります。
 - ⑤利用者の視点に立った介護サービスの質と量を確保します。
 - (3)「誰もが健やかに生活できる社会づくり」
 - ①高齢者がいきいきと活動できる社会づくりに努めます。
 - ②障がい者が地域で自立し、社会参加を促進する社会づくりに努めます。
 - ③子どもを健やかに育てる社会づくりに努めます。
 - (4)「地域福祉を担う人づくり」
 - ①団塊世代を中心とする中高年ボランティアの発掘と育成をすすめます。
 - ②青少年を対象とした福祉教育の推進を図ります。
 - ③住民主体の地域福祉活動を実践する担い手を発掘、育成します
 - ④福祉関係団体の運営協力と自主運営に向けての検討をします。

(5)「地域福祉の充実を目指す組織づくり」

- ①社協組織の理解を促進するために住民への周知・広報を強化します。
- ②社協の中長期的な経営方針を明示し、業務体系を整備します。
- ③地域福祉を推進するための自主財源を安定的に確保します。
- ④行政とのパートナーシップを強化します。
- ⑤役職員の資質向上と法令遵守の徹底を目指します。

地域福祉実践計画基本目標・基本計画書

芦別市社会福祉協議会

計画の名称

芦別市社会福祉協議会 地域福祉実践計画

●現状と課題

◎地域の現状と課題

産業構造の変化により急激な人口減少、過疎高齢化の進行も速く、高齢化率も37%を上回っており、基幹産業である農業においても後継者不足による衰退、また商業においても空洞化の減少を呈している。

既に、町内の中で高齢化率50%超の「限界集落」も出現し、高齢者住民相互の見守り、支え合いの地域づくりが急務である。介護保険における施設サービスや在宅サービス、当社協による訪問介護サービス事業、生きがいデイサービス事業においても限度があり、充足している状況にない。また、介護以外でも障がい者の生活支援、権利擁護のニーズにおいてもその取り組みが充分とは言えない状況である。

◎社協の現状と課題

平成12年から介護保険事業（訪問介護事業）を実施しており、事業体の実態がなかったことから、行政からの要望を受けて展開している。初年度は、行政サイドの支援を受け、以後、経営的には収支の均衡を維持しているが、介護職員の不足、利用者数減の問題、専任担当職員の配置等、労力に加え経営に関する収支バランスについても課題と認識している。

また、住民の社協に対する理解は、生活困窮者対策機関程度の認識であり、依存体質の傾向がまだ払拭できない現状もある。住みやすいまちづくりの意識がやや消極的ではあるが、近隣と助け合い苦勞を分かち合う気風も育ちつつある。

活動の財源として、数年前に会費増額の提案が否決された経緯もあり、自治体財政難による補助金の減少、共同募金収入その他寄付金収入も低迷しており、限られた事業財源でどう本来の地域福祉活動を推進していくかが課題となっている。

基本目標

このまちに住んでいてよかったと誰もが思える福祉のまちづくり

基本計画	重点推進項目	実践項目・事業名	年次計画				
			23	24	25	26	27
地域でともに 支え合う仕組 みづくり	常に住民ニーズの 把握に努めます	住民懇談会の実施	○	○	○	○	○
		住民に対する福祉に関する意識調査の実施	検討	→	実施	→	→
		在宅福祉サービス事業推進懇談会の開催	○	○	○	○	○
		社協事業（地域福祉事業・介護保険事業）から ニーズ把握の推進	○	○	○	○	○
		行政のまちづくり会議への参画	○	○	○	○	○
	ひとり暮らし高齢 者等の見守り体制 を整備します	在宅福祉サービス事業	○	○	○	○	○
		ひとり暮らし高齢者支援事業	○	○	○	○	○
		給食サービスの推進	○	○	○	○	○
		町内会・民生委員との連携	○	○	○	○	○
	高齢者等が気軽に 集う「ふれあいサ ロン」の普及に努 めます	住民主体による「ふれあいサロン」の運営ならび に開設促進	○	○	拡充	→	→
		サロンサポーター養成講座の開催	検討	→	実施	→	→
	災害時要援護者の 支援体制を整備し ます	町内会自主防災組織の立ち上げ支援の推進	○	○	○	○	○
		災害時要援護者支援マップの作成	○	○	○	○	○
	振り込め詐欺、消 費者被害防止の ネットワークを整 備します	「ふれあいサロン」での被害防止啓発	○	○	○	○	○
		防犯協会、市生活交通係との連携	○	○	○	○	○

基本計画	重点推進項目	実践項目・事業名	年次計画				
			23	24	25	26	27
個々の暮らしを支える体制づくり	認知症高齢者や家族への支援体制を整備します	認知症サポーター養成講座の開催	○	○	○	○	○
		認知症高齢者支援ボランティアの育成	検討	→	実施	→	→
		日常生活自立支援事業の推進	○	○	○	○	○
	障がい者の移動・コミュニケーション手段を整備します	障害者送迎サービス	○	○	○	○	○
		手話通訳者派遣制度	○	○	○	○	○
	離職者や一時的に生活困難となった住民を支援します	一時援護資金の相談対応・貸付	○	○	○	○	○
		生活福祉資金の相談対応・貸付	○	○	○	○	○
		生活福祉資金調査委員会の設置、開催	○	○	○	○	○
		災害見舞金贈呈事業	○	○	○	○	○
		低所得世帯新入学児童生徒入学祝金贈呈事業	○	○	○	○	○
	総合相談機能強化と関係機関との連携を図ります	市内相談機関とのネットワーク会議への参画	○	○	○	○	○
		日常生活自立支援事業の推進	○	○	○	○	○
		除排雪に係る各機関・団体との連絡調整	○	○	○	○	○
	利用者の視点に立った介護サービスの質と量を確保します	訪問介護事業の推進	○	○	○	○	○
		生きがいデイサービス事業の推進	○	○	○	○	○
		制度外サービスの検討・開発	検討	→	開発	→	→
		サービスの自己評価・第三者評価の推進	検討	→	実施	→	→
誰もが健やかに生活できる社会づくり	高齢者がいきいきと活動できる社会づくりに努めます	高齢者福祉大運動会の開催	○	○	○	○	○
		高齢者健康コンクールの実施	○	○	○	○	○
		老人クラブ連合会への運営費助成事業	○	○	○	○	○
		高齢者相談事業	○	○	○	○	○
		杖の贈呈事業	○	○	○	○	○
		歳末たすけあい募金の配分事業	○	○	○	○	○
	障がい者が地域で自立し、社会参加を促進する社会づくりに努めます	ふれあい広場の開催	○	○	○	○	○
		歳末たすけあい募金の配分事業	○	○	○	○	○
		障がい者福祉団体への運営費助成事業	○	○	○	○	○
		障がい者の地域移行に対する支援	○	○	○	○	○
	子どもを健やかに育てる社会づくりに努めます	一日里親会の実施	○	○	○	○	○
		住民主体による「子育てサロン」の運営ならびに開設促進	○	○	拡充	→	→
		母子福祉団体への運営費助成事業	○	○	○	○	○
		歳末たすけあい募金の配分事業	○	○	○	○	○
地域福祉を担う人づくり	団塊世代を中心とする中高年ボランティア発掘と育成をします	ボランティアセンターの運営、登録、需給調整の推進	○	○	○	○	○
		ボランティア講座の開催	○	○	○	○	○
		企業・商店街等に対する社会貢献活動の啓発	○	○	○	○	○
	青少年を対象とした福祉教育の推進を図ります	ボランティアスクールの開催	○	○	○	○	○
		総合的な学習の時間(福祉体験)への協力	○	○	○	○	○
		学童・生徒のボランティア活動普及事業	○	○	○	○	○

基本計画	重点推進項目	実践項目・事業名	年次計画				
			23	24	25	26	27
	住民主体の地域福祉活動を実践する担い手を発掘育成します	在宅福祉サービス懇談会の開催	○	○	○	○	○
		ボランティアアドバイザー養成講座の開催	検討	→	実施	→	→
		ボランティア活動団体の結成促進と活動支援	○	○	○	○	○
	福祉関係団体の運営協力と自主運営に向けての検討をします	芦別市共同募金委員会事務局の運営	○	○	○	○	○
		芦別市町内会連合会事務局の運営	○	○	○	○	○
		芦別市民生委員児童委員協議会事務局の運営	○	○	○	○	○
		芦別市老人クラブ連合会事務局の運営	○	○	○	○	○
		芦別地区保護司会事務局の運営	○	○	○	○	○
		芦別市身体障害者福祉協会事務局の運営	○	○	○	○	○
		芦別市手をつなぐ育成会事務局の運営	○	○	○	○	○
		芦別市遺族会事務局の運営	○	○	○	○	○
		福祉団体自主運営化に向けての検討・支援	○	○	○	○	○
地域福祉の充実を目指す組織づくり	社協組織の理解を促進するために住民への周知・広報を強化します	地域福祉実践計画ダイジェスト版の作成	○				
		社協だよりの充実強化	○	○	○	○	○
		社協ホームページの開設、充実強化	検討	→	実施	→	→
		住民懇談会の実施	○	○	○	○	○
	社協の中長期的な経営方針を明示し、業務体系を整備します	地域福祉実践計画評価委員会の設置と開催		○		○	
		介護保険事業経営委員会の設置と開催	検討	→	実施	→	→
		部会・委員会の機能検討	検討	→	○	○	○
	地域福祉を推進するための自主財源を安定的に確保します	会員会費制度の充実と加入率の向上	○	○	○	○	○
		共同募金委員会との連携による共同募金の理解促進	○	○	○	○	○
		社協理解の促進による愛情銀行預託金の確保	○	○	○	○	○
		自主財源となる収益事業の検討	○	○	○	○	○
	行政とのパートナーシップを強化します	行政の福祉計画策定への参画	○	○	○	○	○
		制度・政策への提言機能の強化	○	○	○	○	○
	役職員の資質向上と法令遵守の徹底を目指します	社協職員職場内研修の実施	○	○	○	○	○
		理事・評議員の役割の明確化と機能強化	○	○	○	○	○
		法令遵守・リスクマネジメントに係る規程整備	○	○	○	○	○
		資格取得促進による専門職の確保と養成	○	○	○	○	○

地域福祉実践計画策定委員会 会議録

回数（時期）	内 容
第1回策定委員会 日時：平成22年6月22日 午後6時 場所：総合福祉センター 小ホール 出席者：7名	【議事内容】 ・委嘱状の交付 ・委員長、副委員長の選任 ・地域福祉実践計画策定の趣旨について ・策定スケジュールについて ・芦別市社会福祉協議会の組織及び業務内容について 【配布資料】 ・地域福祉実践計画策定に向けて（道社協資料） ・住民懇談会説明資料
第2回策定委員会 日時：平成22年8月9日 午後1時30分～ 場所：総合福祉センター 小ホール 出席者：7名	【議事内容】 ・本市諸計画と地域福祉実践計画の関連づけについて ・各種調査における福祉の状況把握について 【配布資料】 ・第5次芦別市総合計画ほか関連計画（抜粋） ・在宅福祉サービス推進事業状況調査結果 ・住民懇談会アンケート結果 ・社協職員研修協議内容
第3回策定委員会 日時：平成22年9月22日 午後1時30分～ 場所：総合福祉センター ボランティアルーム 出席者：6名	【議事内容】 ・フリートーキング ① 高齢者福祉について ② 障がい者福祉について ③ 児童福祉について ④ 地域を担う人づくりについて ⑤ 社協の組織について
第4回策定委員会 日時：平成22年11月19日 午後1時～ 場所：岩見沢市市民会館 出席者：3名	【議事内容】 ・空知地区地域福祉実践計画策定推進会議に出席 基調説明：地域福祉実践計画策定の必要性について 行政説明：地域福祉計画の策定について 実践報告：地域福祉を推進する取り組みについて
第5回策定委員会 日時：平成23年1月31日 午後1時～ 場所：総合福祉センター 小ホール 出席者：4名	【議事内容】 ・地域福祉実践計画の構成について ・地域福祉実践計画基本目標・基本計画書について 【配布資料】 ・地域福祉実践計画の構成（案） ・地域福祉実践計画基本目標・基本計画書（案）
第6回策定委員会 日時：平成23年2月22日 午後4時～ 場所：総合福祉センター 小ホール 出席者：4名	【議事内容】 ・地域福祉実践計画の構成（案）の精査について ・地域福祉実践計画の答申 【配布資料】 ・地域福祉実践計画書（案）

芦別市社会福祉協議会地域福祉実践計画策定委員名簿

役職	氏 名	選出区分	所属・役職
委員長	高 島 英 世	町内会連合会	芦別市町内会連合会会長
副委員長	野 坂 恭 子	婦人団体	芦別市婦人団体連絡協議会会長
委員	松 井 元	民生委員児童委員協議会	芦別市民生委員児童委員協議会副会長
委員	武 田 貞 信	社会福祉関係団体	芦別市身体障害者福祉協会会長
委員	川 邊 弘 美	社会福祉事業団体	社会福祉法人芦別慈恵園施設長
委員	西 道 清	老人クラブ連合会	芦別市老人クラブ連合会会長
委員	高 杉 律 子	ボランティアセンター	婦人ボランティアあすなろ会会長